

## 身近にある人権問題

北杜市立武川中学校三年 大屋 美音

私は、人権問題は私たちの身近にあり、私や家族、友達の一人一人が当事者なのだと考えます。

そう思うようになったきっかけは私の住む地域の人権擁護委員の方のお話を伺ったことにあると思います。人権擁護委員の方から直接、人権とはどんな権利なのか、人権が守られないときはどんな時なのかを教わりました。特に印象に残ったのは人権が具体的にどんな権利を指すのかを学んだことです。人権とは「人として、自分を大切に、幸せに生きる権利」なのだそうです。私が驚いたのはこの文章のポジティブさです。私は今まで、人権という言葉に少しネガティブな印象を抱いていました。今までニュースなどで見てきた人権問題に関する話題に、いじめや家庭内暴力といった重たい話題が多く、勝手に人権に対して怖いというイメージを作っていました。自分を大切に幸せに生きるのは、生きる上で一番とっていいほど大事で忘れないようにしたい考え方だと思います。人それぞれの生き方が守られるために人権があるのだと感じました。

人権擁護委員の方のお話を聞いていて思い出したのは私の祖父母のことです。私の祖母は小さいころに麻痺にかかり、足の長さが左右で変わってしまいました。そのため歩くスピードがほかの人に比べてゆっくりです。そんな祖母と生活していてこのような場面がありました。私の地域では秋になると移動販売の焼き芋屋さんが売りに来てくださります。祖母はよく焼き芋を買って私に渡してくれます。ある日、移動販売の車が祖母の家に通りかかると、そのまま通りすぎずに止まりました。そこに庭を歩いて出ていく祖母の姿が見え、車が止まったのは祖母を待っているからだ気づきました。祖母のことを知っているからこそ祖母に負担にならないように車を止めてくれた姿に温かい気持ちになりました。何気ない気遣いがだれもが暮らしやすい社会になるために必要なのだと学びました。また、祖父のことも思い出しました。私の祖父は何年か前から透析をして過ごしています。祖父の車には緑色のカードが入っており、このカードがあると駐車場の優先駐車場所に車を止めることができます。優先駐車ゾーンはショッピングセンターや入りたい施設の入り口に近く、買い物に行くまでの道のりが安全で疲れにくくなるように配慮されていると感じました。

祖父母と生活して触れた、人々の些細な思いやりも「人権」と深くかかわっているのだと気づきました。なぜなら人権がだれもが幸せに生きるためにあるのだと分かったからです。身近な人には幸せに生きていてほしいです。そのためには思いやりを持って相手と接することが大事だと思います。焼き芋屋さんの方の運転手の方が車を止めて待っていてくださったからこそ、祖母は安心して歩けたと思います。周りの人と思いやりあって過ごすだけでも、人権が守られる世界にするために貢献できると思います。

今回人権について考えていて気付いたことはもう一つあります。それは、自分の価値観にとらわれずに視野を広く持つことがどれだけ大切かです。私は今まで人権問題に対して負の感情を感じていました。人権擁護委員の方の話を聞き、自分の家族の生活に置き換えて人権問題を考えることで今までのイメージはなくなり、人権問題を自分ごととして考えられるようになりました。しかし、もし人権擁護委員の方の授業を受けていなかったら私の人権に対するイメージはいつまでも暗いままだったかもしれません。自分が体験してこなかった出来事を「イメージ」を膨らませて決めつけてしまったのも良くなかったし、少ない情報から勝手にイメージを作ってしまったのも良くなかったと反省しました。一つの出来事には様々な側面があります。自分が見てきた側面はその物事の一部にすぎません。物事には全て、良い側面もあれば悪い側面もあると思います。一方の側面だけを見て「これは良い」「これは良くない」と判断するのは差別や偏見につながっていきます。これから、自分にとって未知の出来事に出会ったら、ほかの立場の人の意見を聞いてみたり、長い時間をかけて何が起こっているかを自分で確かめたりしたいと思いました。自分の考えと異なっていたとしても相手の意見を受け入れ、取り入れられる考え方があったら自分の意見に反映させることができるような柔軟な大人になりたいです。

まずは、身近な人とのかかわりを大事にして思いやりを忘れずに過ごしていきたいと思いました。誰かの苦しみを救うことは私にはまだ難しいですが、笑顔で相手と接することならすぐできると思います。人権侵害がなくなる世の中にするために自分ができることからやっていきたいです。